



とり しろ
鳥のふんはなぜ白いの

からだ なか がい によう たいがい だ
体の中で害になるものは、尿として体外に出される

わたしたちの体の中では、体からだに害がいをおよぼすものや、いらなくなったものがつくられて
いますが、それらは、尿によう、つまりおしっこになって、体からだの外そとに出だされます。

体内たいないでつくられたアンモニアは、毒性どくせいが強いので、毒性どくせいの低い尿素ひくや尿酸にようそに変えられま
す。陸りくにすむ多くの動物は、体からだに害がいのある毒性どくせいのものを、水みずにとけやすい尿素にようそとして体からだ
外そとに出だしてしまいます。これが、おしっこです。

とり しろ ぶぶん によう
鳥のふんの白い部分は尿

鳥とりは空そらをとぶため、いつも身みを軽くしておくのです。それで、食べたものをすぐ体からだの外そと
に出だそうとします。鳥とりは人ひととちがって、アンモニアを水みずにとけにくい尿酸にようさんにかえて、ふん
といっしょに体からだの外そとに出だします。尿酸にようさんは、せっこうのような白い色しろをしています。

鳥とりはふんとおしっこをいっしょにしているため、ふんしろの白い部分ぶぶんがじつは、おしっこな
のです。

なお、ヘビ、トカゲ類も鳥と同じように尿酸にようさんにかえて、体からだの外そとに出だしています。

(監修 今泉忠明)

●鳥の体の中

